

平成30年度 学校自己評価表（後期）

府中市立南小学校

推進し 小中一貫 教育	中期経営 目標	短期経営目標 (3/3)	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					後期 評価	結果と課題の説明	後期 適正	意見等	
確かな学力	基礎基本の 学力の確実 な定着	基礎学力が確実に定着し、学力が向上する。	「楽しく」「わかる」授業の工夫・改善を図る。	標準学力調査で、正答率60%を上回る。国算の単元末・学期末テストの通過率80ポイントを超える児童 低 80% 中 75% 高 70%以上	B	CDTテストの結果、正答率が60%を超える児童の割合が、国語科94%、算数科91%であった。学年ごとの課題が大きい。学年別に見ると、国語科では2・3年生、算数科では5年生の課題が大きい。特に5年生は、来年度の全国学力テストに向けて、課題に対する取組を行っていく必要がある。早めに3学期の学習内容を終え、復習する時間を十分にとり、苦手なところを学び直したり、繰り返し練習したりすることで、確実に定着させていく。	A	CDTテストの通過率が、国語科・算数科ともに当初の目標を上回っている。特に国語科が高いのは、長年、国語科を中心として取り組んでこられた成果だと思う。また、基礎学力の定着をめざし、個別指導や類似問題の作成、ドリルタイム等、取組が大変、丁寧である。こういった取組を通して、更に子ども達が「楽しい」「わかった」と言えるよう南小教育を充実させてほしい。	・標準学力テストの正答率の目標を低・中・高ごとに決めて評価する。 ・算数科の授業では、複数の教員で指導したり、プリント学習を継続したりしながら、学力の定着を図る。 ・家庭学習カードに学習時間を書き込む欄をつくり、保護者にも確認してもらう。
			ドリルタイムや個別指導の充実を図る。	全国学力・学習状況調査の結果を分析し、類似問題を作成する。	全国学力・学習状況調査の平均正答率を上回る。12月の類似問題で正答率を5ポイント上げる。(府南)	B	国語・算数・理科3問ずつあった類似問題のうち、算数で1問だけ5ポイント上げることができなかった。その他の問題においては大幅に正答率を上げることができた。課題の残った問題については学び直しを行い、確実に定着させていく。		
		家庭学習の習慣を身につけ、主体的に取り組む。	府南学園学習の手引きをもとにし、家庭学習開始時刻を決め、守らせる。	家庭学習の学年目標を達成する児童80%以上 低 時間を意識して取り組む(1年 20分、2年 30分) 中 復習を中心に取り組む(3年 40分、4年 50分) 高 予習・復習を中心に取り組む(5年 60分 6年 70分)	A	全校の到達率は教師の見取りで90%であり、目標値には達しているが、やり切れない児童が固定化していることが課題である。今後も引き続き家庭との連携を密にこり、保護者とともに家庭学習の習慣を身に付けさせるよう取り組んでいく。また、今後、学習時間をカードに書き込み、保護者にも確認してもらえるようなシステムなどを考えることで、児童が学習時間を意識できるような取組を行っていく。	A		
	思考力・表現力の育成	友達の考えや意見に対して、自分の考えを表現させ、意見を深め合う。	練習合いの場面を効果的に設定し、発問を工夫したり、児童同士の意見の交流をさせたりして、考えをより深める。	児童が自分の意見を表現し、互いの考えに対して意見を述べる児童80%以上	B	教師の見取りの結果、全校の達成率は60%であった。自分の考えが持てない児童もいれば、自分の意見を持っていても全体の場に出せないという児童もいる。子ども同士で積極的に意見や質問を交わし、練習合いの中で深く考え合う授業を創ろうとしてきたが、児童の「自分の考えをみんなに伝えたい」という意欲を高めることができなかった。授業だけでなく、いろいろな場面において、自分を積極的に表現する場を設定していく。	B		
授業のまとめ、振り返りまでを確実にし、終了時刻を守って授業を終える。			職員の自己評価 80%以上(府南)(50分の授業について)	A	教師の自己評価で86%の達成率であった。今年度から高学年は50分授業に変更したが、50分または45分の時間の中で、確実にまとめ・振り返りまでさせることが大切である。時間を守ることに限ってはできているが、まとめや振り返りの充実には課題が見られる。来年度、振り返りの視点を見直ししたり、書く量を増やしたりしながら充実させていく。	A			
地域で創る学校	コミュニティ・スクールの推進	積極的にコミュニティ・スクールについて周知を行い、地域諸機関・家庭との連携を深める。	・コミュニティ・スクールについて保護者・地域の方に周知させ、新規の参加者を増やす。 ・子どもが大人と一緒に企画・運営に関わり、お互い意見を交流する活動を設定する。	・地域の方に学校に来ていただいた人数350人以上(前期 100人以上、後期 250人以上) ・子どもが大人と一緒に企画・運営に関わり、お互い意見を言い合う場を各学年1回以上つくる。	A	コミュニティ・スクール推進のためのコミュニティ・スクールだよりは、毎月、保護者・地域へ配布した。地域の参加者は前期でのべ183名で、後期でのべ272名、合計455名と、目標の350名を大きく上回ることができた。子どもが大人と一緒に活動したり、お互い意見を言い合う場を設けることができた。1年間の取組を振り返り、さらに子どもと大人がお互いに関心や交流できる場が設定できるよう仕組んでいく。	A	目標の350人を上回る455人の地域の方々が来校しておられる。学校や運営協議会の取組が新規参加者、学校協力者を増やしてきていると考える。今後、校内での安全面を考慮し「運動会」「フレンドフェスタ」「お礼の会」の3本のイベントで多くの地域の人を集めていく取組を推進したらどうだろうか。	・「お礼の会」を全体で行い、お互いが見合う方法をとる。
豊かな心	自らを律し、自立し、相手意識をもつ	無言掃除を行う。	15分間黙って掃除に取り組ませる。	児童の自己評価 80%以上(府南) 教師の評価 80%以上	B	ダスキンの方々による掃除指導を実施した。ほうきの使い方や雑巾での床拭きの仕方、掃除の目的等を話し、掃除の取り組み方に生かすよう指導した。また、無言掃除強化週間を設定し、各掃除場所の掃除を生徒指導部の職員で評価し、無言掃除を徹底させた。その評価を基に、美化マスターとして、掃除場所ごとに表彰を行い、児童がより意識をして無言掃除を行うことができるよう取り組んできた。取り組みの結果、全校の達成率は78%であった。どの学年も80%を達成できるよう、取り組みを進める。	B	地域では、高学年の児童より低学年の児童の方がよく挨拶できている。積極的に挨拶するのが「恥ずかしい」という思いがあるのだろう。第一中学校の生徒もよく挨拶をしているので、今後、地域でも大人が率先して声かけ、挨拶を行い、学校の取組を支援していきたい。	・地域の人が、進んであいさつができていると思ってもらえるよう、児童会を中心に取り組む。
		進んであいさつを行う。	府南の「あいさつレベル5」目標にあいさつをする生活態度を身につけさせる。	1・2年生 レベル2 児童90%以上 3・4年生 レベル3 児童90%以上 5年生 レベル4 児童90%以上 6年生 レベル5 児童70%以上(府南) 地域の方の肯定的評価 80%以上	C	府南学園全体で統一したあいさつレベルを設定し、挨拶運動に取り組んでいる。児童会を中心に、あいさつの啓発に取り組んだ。2学期から、あいさつ強化週間で学期ごに1回設定したり、各月にあいさつ名人を決め、表彰したりして、継続的に児童の意識を高めるよう取り組んだ。児童の自己評価と教師の見取りには差がある。全校児童の達成率は77%であった。各学年の目標達成率にばらつきがあり、表彰をする児童や学年が偏ってしまっていた。なかなかあいさつレベルが高まらない。学年や個別の児童への取り組みを充実させていく必要があった。学校全体として、あいさつへの意識を高めていくことができるよう、取り組みを継続していく。また、全体の場や学級としてのあいさつとともに、一人一人のあいさつをより高めていく必要がある。児童会を中心に、月目標として取り組んだり、各学級でのあいさつの状況を振り返ったりしながら、学級での普段のあいさつを意識して取り組めるように、指導と評価を徹底する。			
頑張る体力	健康的な体と基礎的な運動能力の育成	進んで体力づくりを行う。	・外遊びを奨励し、業間体育(ランニング・縄跳び)を継続する。 ・体育の時間を中心に走り方の指導や練習を継続する。	体育科の授業改善と業間体育の工夫により50m走を中心に全国平均を上回る項目80%以上。(府南)	A	再測定をした結果、全国平均を上回る項目は82項目あり、達成率は85%であった。課題は女子の立ち幅跳びである。業間体育ではセット運動やダッシュコーナーを設けるサーキット運動を行い、瞬発力や走力を高める工夫を行った。さらに、業間マラソンや業間なわとびにも取組み、学校行事に合わせて体力づくりの向上に努めた。ロング屋休職には全校レクや学級レクを取り入れ、全員が外遊びができるよう環境づくりを設定したが、普段の休憩時間外遊びをする児童の増加にはつながっていない。体育科では、各学年の発達段階に合わせて体力向上に向けた授業改善を図った。次年度も、業間体育や外遊びの工夫をしながら、体力向上に努めていく。	A	授業改善、業間体育の工夫、ロング屋休憩等の取組で学年により、ばらつきは見られるものの達成率85%が出ている。来年度、更に子ども達のやる気高めさせるために、1年前の自分の記録より、どれだけ伸びたかを競わせ、評価していくことも取り入れたらどうだろうか。	・外遊びが活発になるよう、目標を設定し取り組む。 ・新体力テストのプレテストを行う。 ・昨年の記録と比較させながら取り組む。